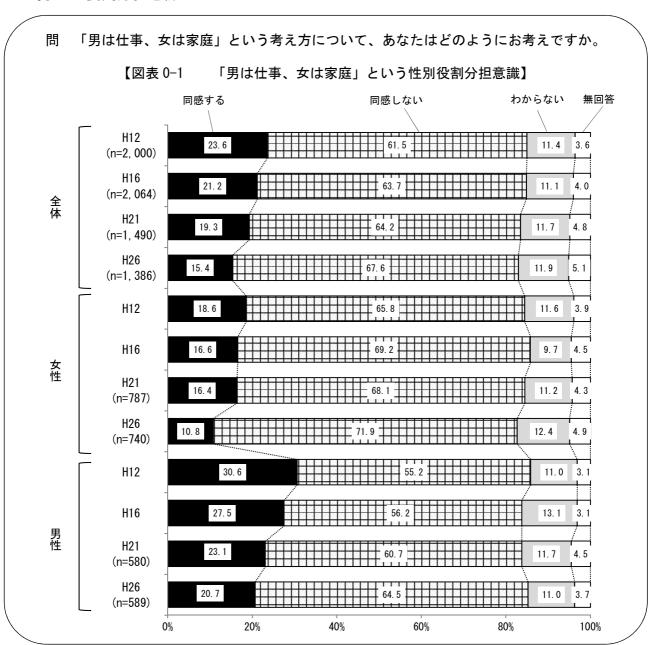
Ⅱ 調査から見た「男女共同参画社会基本法」制定以降の意識の変化

平成11年6月の男女共同参画社会基本法の制定から15年が経過したが、平成12年と平成26年の県民意識調査の結果を比較し、この間の意識の変化を概観する。

1. 男女の役割分担意識



◆「同感しない」が増加

全体では、「同感する」が H12 年調査と比べると、8.2 ポイント低下し、「同感しない」は、6.1 ポイント上昇している。

女性では、「同感する」が H12 年調査と比べると、7.8 ポイント低下し、「同感しない」は、6.1 ポイント上昇している。

男性では、「同感する」は H12 年調査と比べると、9.9 ポイント低下し、「同感しない」は、9.3 ポイント上昇し、女性に比べて男性の方が意識の変化が大きい。

2. 結婚・家庭・離婚・夫婦別姓等についての考え方

問 結婚や離婚、夫婦別姓等についてあなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も 近いものにそれぞれ1つずつ〇印をつけてください。 H12 (n=2, 000) H16 (n=2, 064) H21 (n=1, 490) 【図表 0-2 結婚・家庭・離婚・夫婦別姓等についての考え方】 H26 (n=1, 386) なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、 男性は、家庭をもって一人前だと言える 女性は結婚するほうがよい どちらとも いえない どちらかと どちらかと どちらかと どちらかと どちらとも 無回答 反対 いえば反対 反対 無回答 替成 いえば反対 賛成 いえば賛成 いえば賛成 いえない 24. 1 6. 8 12. 8 33. 3 5. 0 3. 7 H12 22. 9 34. 0 1. 3 H21 24 2 31.0 1.1 32. 5 6. 7 31.3 3.5 4.4 21.8 H16 37.3 1.7 24. 0 H26 27. 1 88 0.9 18.6 5.1 4.6 38. 3 H21 32.5 -0.9 H26 16.9 32. 3 5.6 6.6 37.7 0.9 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい 20.8 23. 2 24 3 12 6 2 9 H12 - 16.4 -H12 16.4 10.6 27. 5 23. 1 % 20.0 2.6 20.8 15. 2 2. 4 H16 14. 9 10.5 25. 2 2. 4 H16 12.5 18.8 16.0 26. 4 22. 4 21. 1 24.3 H21 12.6 H21 16.4 15. 1 24. 0 1.3 1.5 18.3 21.5 17.8 23.7 H26 22.7 12.8 24. 0 1. 2 H26 16.7 23.7 16.4 1. 2 夫も妻も家庭責任は共にもつべきである 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい 0.60.3 11.3 2.62.9 H12 82. 4 15. 1 15.7 25 0 27 5 2 3 H12 14 6 0. 50, 6 H16 84. 1 11.1 1.9 1.8 H16 14. 2 16.6 24. 4 15. 2 27. 5 2. 1 0.30,5 17.8 25 8 H21 84. 4 12.3 1.31.2 H21 12.1 27 7 1.5 15.1 0.6 2 13.0 — 0 12.7 16.1 84. 1 H26 26.6 8 14.4 29. 1 1.1 H26 0. 7 0.3 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい H12 27. 6 17.1 3.8 4.9 44. 5 2. 2 H12 13.4 10.3 19.0 33.6 22. 2 1.6 II V//1 27. 8 2 5 42 9 14.7 H16 20.0 📘 4.0 2.8 H16 10.6 18.7 33.0 21.3 1.7 25.4 43.4 1.7 13.0 23. 3 H21 21.3 4.2 4.0 H21 18 9 1.4 12 1 31 3 2 22.4 4.9 4.2 13.8 1.1 0.9 H26 H26

13 6

19 6

27 3 3

25 0

43 9

◆「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚する方がよい」では「賛成」が減少

「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚する方がよい」では、H12 年調査と比べて『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合)が 7.0 ポイント低下している。

「男性は、家庭をもって一人前だと言える」では、H21 年調査と比べて『賛成』が 8.2 ポイント上昇 している。

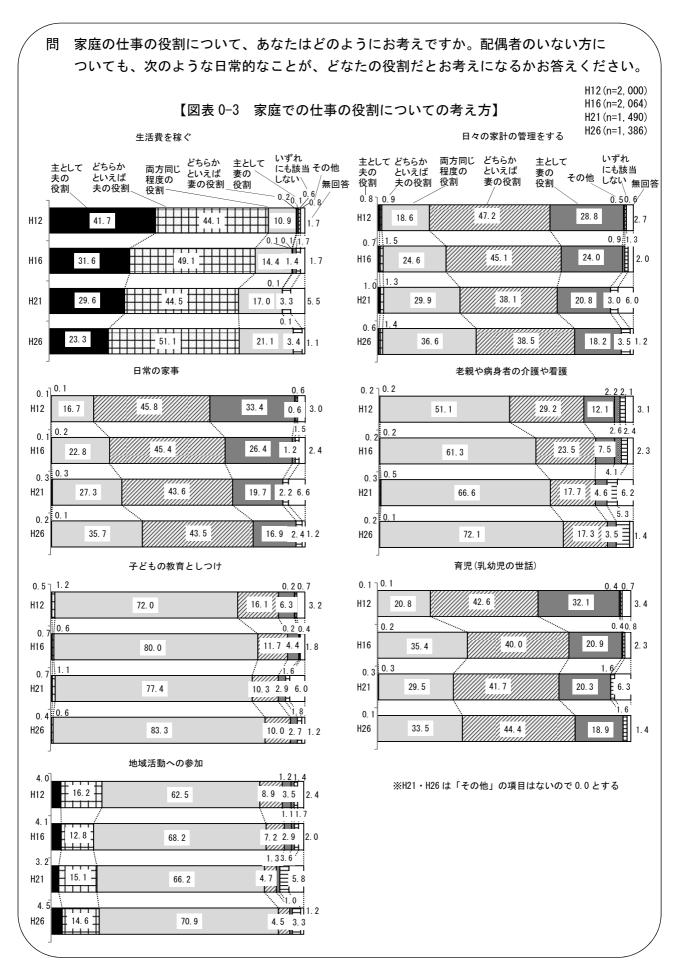
「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」では、H12 年調査と比べて大きな変化は みられない。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」では、H12年調査と比べて『賛成』が 8.0 ポイント上昇し、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合)が 10.5 ポイント低下している。

「夫も妻も家庭責任は共にもつべきである」、「結婚しても相手に満足できないときには離婚すればよい」、「一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である」では、H12 年調査と比べて大きな変化はみられない。

「夫婦が別々の姓を名乗ることを認める方がよい」では、H12年調査に比べて『反対』が 5.7 ポイン 低下している。

3. 家庭での仕事の役割についての考え方



◆すべての「家庭での仕事」について「両方同じ程度の役割」が上昇

「生活費を稼ぐ」では、H12 年調査に比べて『夫の役割』(「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合わせた割合)が 11.4 ポイント低下し、「両方同じ程度の割合」が 10.2 ポイント上昇した。

「日々の家計の管理をする」では、H12年調査と比べて、『妻の役割』(「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合わせた割合)が19.3ポイント低下し、「両方同じ程度の役割」が18.0ポイント上昇した。

「日常の家事」では、H12 年調査に比べて『妻の役割』が 18.8 ポイント低下し、「両方同じ程度の役割」が 19.0 ポイント上昇した。

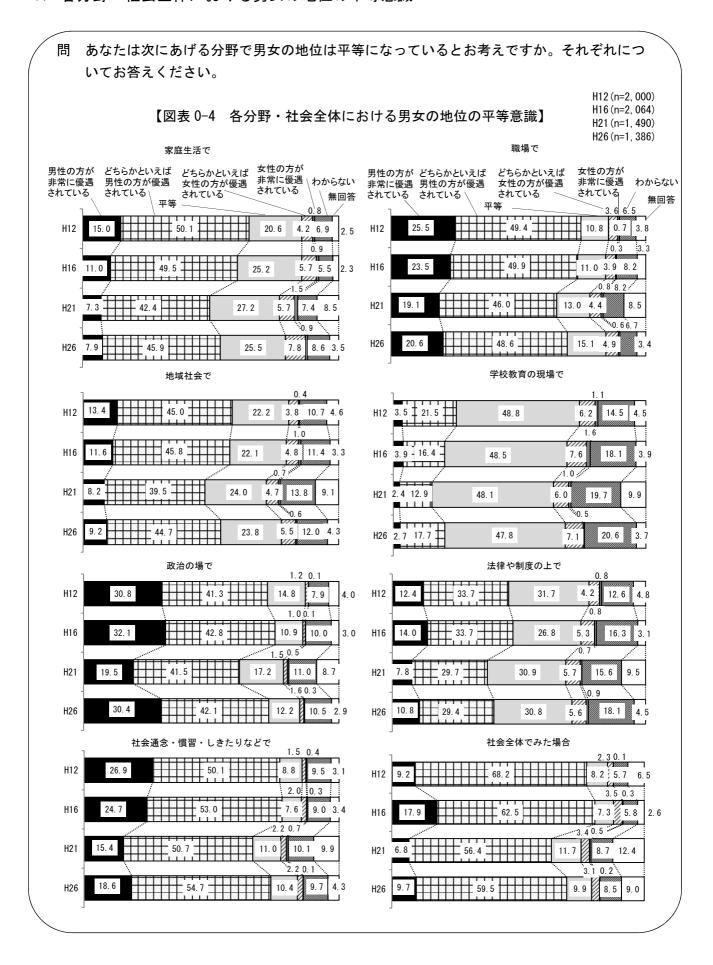
「老親や病身者の介護や看護」では、H12年調査に比べて、『妻の役割』が 20.5 ポイント低下し、「両方同じ程度の役割」が 21.0 ポイント上昇した。

「子どもの教育としつけ」では、H12 年調査に比べて、『妻の役割』が、9.7 ポイント低下し、「両方同じ程度の役割」が 11.3 ポイント上昇した。

「育児(乳幼児の世話)」では、H12年調査に比べて、『妻の役割』が 11.4 ポイント低下し、「両方同じ程度の役割」が、12.7 ポイント上昇した。

「地域活動への参加」では、『妻の役割』が 6.9 ポイント低下し、「両方同じ程度の役割」が 8.4 ポイント上昇した。

4. 各分野・社会全体における男女の地位の平等意識



◆社会全体、各分野で『男性が優遇』が低下

社会全体や各分野で、H12年調査と比べて『男性が優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合)が低下する傾向にある。

「社会全体でみた場合」では、H12年調査に比べて『男性が優遇』が 8.2 ポイント低下しているものの、『男性が優遇』は7割程度と高くなっている。

また、各分野ごとに見ると「家庭生活で」では、H12年調査に比べて『男性が優遇』が11.3ポイント低下している。

「職場で」では、H12年調査に比べて『男性が優遇』が 5.7 ポイント、「法律や制度の上で」では、H12年調査に比べて、『男性が優遇』が 5.9 ポイント低下している。

「地域社会で」、「学校教育の現場で」、「政治の場で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、大きな変化はみられない。